



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 5		
講義室	1302	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕問いを設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（15%） F1 探究と論拠(10%) F2 課題解決(10%) J1 継続的学修基盤(10%) J2 創造的思考(10%) K1 ライティング・コミュニケーション(10%) K2 オーラル・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(15%) M1 統合的・応用的学修(10%)		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基盤となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関して、実際に歴史文献の収集や、社会調査、事例分析や法学的検討などの実証的な研究活動を通じて、オリジナルの一次資料による個人研究の作業を開始し、指導します。 授業形態は（講義・実技・実習・演習）形式により行います。なお、対応するコンピテンスに		

	基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 研究計画、研究目的、研究アプローチ								
授業の趣旨	■副題 研究計画とその履行 ■授業の目的 ゼミナールⅡにおいて、主体的な研究への取り組み方と卒業論文のベースとなる簡易なレポートをまとめてもらいました。Ⅲにおいては、研究計画に基づいて、本格的な研究活動を精力的に進め、相互的に批判・検証を行って研究内容をチェックするとともに、卒業論文のための研究の中間成果についてまとめることを目的とします。 ■授業のポイント 漫然と勉強するという姿勢ではなく、研究計画に沿って、研究の目的をつねに自覚しながら、これを達成するためにどのような作業を必要とするかを明確にして、研究を進める必要があります。もっとも、計画に縛られる必要はなく、計画自体も、柔軟に見直しながら、成果を獲得できるように努めてください。								
総合到達目標	【一般目標】 卒業論文の作成を目標に、研究を計画的に行う姿勢を身に付け、研究を段階的に進捗させる方法について修得する。 【個別行動目標】 ■研究計画に基づいて研究を行い、その成果を発表することができる。（第1回～第15回）								
成績評価方法	■発表（25%）：適用ルーブリック E1・F1・F2・J1・J2・K2・M1 （評価の観点）研究計画に基づき、研究目的を達成するために必要かつ適切な作業が進められているかどうかという観点から評価を行います。 （フィードバック方法）発表者に、是正すべき点などについて指摘します。 ■ディスカッションへの参加度（25%）：適用ルーブリック E1・J1・J2・K2・L1 （評価の観点）主体的・積極的にコミットし、協働して問題の解決を図るという姿勢について判定します。 （フィードバック方法）授業の最後にコメントします。 ■中間成果をまとめたレポート（50%） 適用ルーブリック E1 F1・F2・J1・J2・K1・M1 （評価の観点）研究に進捗が認められるかどうかを中心に評価します。 （フィードバック方法）提出後、目を通して、問題点を指摘したうえで各自に返却します。								
履修条件	特になし								
履修上の注意点	報告者が発表するテーマについて、他のメンバーも事前学習を行い、積極的・主体的に課題と取り組み、活発なディスカッションによる有意義な学修成果を獲得できるように努める。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 研究計画（1） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、問題点等の指摘に基づいて見直しを行う。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 研究計画（2） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、指摘に基づいて見直しを行う。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 研究計画（3） </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 研究計画（1） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、問題点等の指摘に基づいて見直しを行う。	2	①授業テーマ 研究計画（2） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、指摘に基づいて見直しを行う。	3	①授業テーマ 研究計画（3）
回	内容								
1	①授業テーマ 研究計画（1） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、問題点等の指摘に基づいて見直しを行う。								
2	①授業テーマ 研究計画（2） ②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、指摘に基づいて見直しを行う。								
3	①授業テーマ 研究計画（3）								

	②授業概要 最終学年を迎え、卒業論文の完成まで1年という時期を踏まえ、研究計画と卒業論文完成までのスケジュールについて確認します。 受講者は、卒業論文提出までの作業のプランを把握することができ、準備に取り組むことができるようになる（J1・J2）。 ③予習（120分） 各自、研究計画書を作成し、提出する。 ④復習（120分） 研究計画について、指摘に基づいて見直しを行う。
4	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（1） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
5	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（2） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
6	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（3） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
7	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（4） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討してください。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。

	④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
8	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（5） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
9	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（6） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
10	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（7） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
11	①授業テーマ 論証・検証と文献・資料・データ（8） ②授業概要 研究計画に基づいて、研究目的に必要な情報が十分に収集されているかどうか、またそれらの論証・検証との関連性について検討します。 受講者は、研究目的達成のために必要な文献・データを整理し、論証・検証との関連性を確認することによって、論文の全体構想を具現化し、これを表現できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。 ③予習（120分） 研究計画に基づく文献・資料等の収集およびそれらの分析・検討し、研究目的との関連においてそれらがどのように関連付けられているのかについて整理して、発表できるように準備する。 ④復習（120分） 文献・資料等の不足を補って、研究の質を向上させる。
12	①授業テーマ 研究の中間成果の発表（1） ②授業概要 研究の中間成果について発表し、全員でディスカッションを行って検討します。 受講者は、研究の中間発表により（K1・K2）、到達のレベルを認識することができ、

	今後の計画を具体化できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。ディスカッションにより、相互に成果を共有し、各自の研究に対する批判的観点と創造的機会の提供を通じて、研究構想の充実を図り、これを表現できるようになる（J1・J2・L1・M1） ③予習（120分） 各自、研究の中間成果についてレポートにまとめたうえ、発表できるように準備する。（レポートは、発表時に提出する。） ④復習（120分） 指摘された問題点を踏まえて、研究の見直しを行う。
13	①授業テーマ 研究の中間成果の発表（2） ②授業概要 研究の中間成果について発表し、全員でディスカッションを行って検討します。 受講者は、研究の中間発表により（K1・K2）、到達のレベルを認識することができ、今後の計画を具体化できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。ディスカッションにより、相互に成果を共有し、各自の研究に対する批判的観点と創造的機会の提供を通じて、研究構想の充実を図り、これを表現できるようになる（J1・J2・L1・M1） ③予習（120分） 各自、研究の中間成果についてレポートにまとめたうえ、発表できるように準備する。（レポートは、発表時に提出する。） ④復習（120分） 指摘された問題点を踏まえて、研究の見直しを行う。
14	①授業テーマ 研究の中間成果の発表（3） ②授業概要 研究の中間成果について発表し、全員でディスカッションを行って検討します。 受講者は、研究の中間発表により（K1・K2）、到達のレベルを認識することができ、今後の計画を具体化できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。ディスカッションにより、相互に成果を共有し、各自の研究に対する批判的観点と創造的機会の提供を通じて、研究構想の充実を図り、これを表現できるようになる（J1・J2・L1・M1） ③予習（120分） 各自、研究の中間成果についてレポートにまとめたうえ、発表できるように準備する。（レポートは、発表時に提出する。） ④復習（120分） 指摘された問題点を踏まえて、研究の見直しを行う。
15	①授業テーマ 研究の中間成果の発表（4） ②授業概要 研究の中間成果について発表し、全員でディスカッションを行って検討します。 受講者は、研究の中間発表により（K1・K2）、到達のレベルを認識することができ、今後の計画を具体化できるようになる（E1・F1・F2・J1・J2・M1）。ディスカッションにより、相互に成果を共有し、各自の研究に対する批判的観点と創造的機会の提供を通じて、研究構想の充実を図り、これを表現できるようになる（J1・J2・L1・M1） ③予習（120分） 各自、研究の中間成果についてレポートにまとめたうえ、発表できるように準備する。（レポートは、発表時に提出する。） ④復習（120分） 指摘された問題点を踏まえて、研究の見直しを行う。
関連科目	「危機管理基礎演習Ⅰ（RMGT2601）」、「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅳ（RMGT4601・4602・4604）」
教科書	とくに使用せず。
参考書・参考URL	必要に応じ、随時指示します。。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に、告知します。 ■オフィスアワー 金曜1限。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ40%：グローバルセキュリティ20%：情報セキュリティ20% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学30%：法学70%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.